

氏名	横 田 聡
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 甲 第 1067 号
学位授与の日付	平成 4 年 3 月 31 日
学位授与の要件	医学研究科 内科系内科学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	膠原病肺の病態に関する研究 第1編 膠原病肺の気管支肺胞洗浄法による細胞反応について 第2編 膠原病肺における血清中および気管支肺胞洗浄液中sol- uble IL-2 receptorの検討
論文審査委員	教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

膠原病に伴う間質性肺病変を気管支肺胞洗浄法(BAL)による肺局所細胞反応とIL-2 receptorに関して検索し、病態との関連で検討した。膠原病肺(RA, PSS, SLE, PM/DM)と共に、疾患対照として特発性間質性肺炎(IIP)にBALを行い、細胞分類、リンパ球サブセット、血清並びにBALF中sIL-2Rの測定を行った。膠原病肺では総細胞数の増加を認め、肺胞マクロファージ比率の相対的減少、リンパ球、好中球、好酸球、好塩基球/肥満細胞の各細胞成分比率の増加を認めた。RA+IPの活動期には、リンパ球と各顆粒球の増加を認め、好中球、好酸球増加と肺機能障害の関連が推定された。血清中sIL-2Rは膠原病において高値であったり、RA+IPでは有意に高値であった。間質性肺炎を合併しないRAに比べRA+IPはさらに高値であり、RA+IPにおいてもsIL-2Rは肺病変の活動性との関連でさらに高値となる傾向を示した。各膠原病肺における末梢血中CD25は膠原病でやや低値であり、血清中sIL-2Rとの関連は認めなかった。膠原病におけるBALF中sIL-2RはRA+IPで高値となる傾向であり、sIL-2R/A1b比はRA+IPが健康人対照と比べて有意に高値であった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は膠原病に伴う間質性肺病変を、気管支肺胞洗浄法による肺局所細胞反応と

IL2receptorに関して検索し，病態との関連で検討したもので，総細胞数の増加を認め，肺胞マクロファージ比率の相対的減少，リンパ球，好中球，好酸球，好塩基球／肥満細胞の各細胞成分比率の増加を認めた。また血清中sIL-2R高値となり末梢血中CD25はやや低値であった。これらの成績は本症の特徴を明らかにしたもので，価値ある業績である。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。